



發行所 常磐每日新聞社
 印刷所 常磐每日新聞社
 編集人 川崎文治
 印刷人 川崎文治

定 一 部 金 貳 錢
 郵 税 五 厘
 廣 告 費 另 議
 字 體 一 行 五 十 字
 刊 日 一 日
 印 刷 所 本 社 常 磐 郡 常 磐 町 一 一 番 地

刊夕日五十月八

新聞に貞操なし
 常磐論壇
 山本正巳
 一面から見ればかう云ふ
 報導形式に忌まはしい陋習
 がこびりついてしまつたに
 ついては新聞を娯樂機關と
 して重視する嗜好上の原因
 があるのは争はれぬ、そ
 うして娯樂機關としての効用
 には満足する新聞社、編
 輯者、記者にばかりはな
 らず問題とするに及ばぬ
 小問題であらう又記者及讀
 者の大多數がさうである
 せば新聞經營者がさうした
 記事の撰擇法及その報導形

式を一新するにやぶさか
 あるは自然の勢ひであら
 う唯問題は、新聞經營者
 がさうした理性が不可思議
 的因襲に曳摺られて行つて
 可なりや否やに在る

私をあへていふ、今日の新聞
 は眞面目である而して不
 眞面目であると、即ち今日
 の新聞自體には避くべから
 ざる人格分裂が見のがせな
 い、さうして之は一方に實
 用本位の讀者のために忠實
 な報導の任に當りその相談
 相手となり他方に享樂本位
 の即ち新聞を講談雜誌や小
 説本の變型の如くに讀む者

A			電 話 開 設 御 披 露											
番 號	町 名	氏 名	番 號	町 名	氏 名	番 號	町 名	氏 名	番 號	町 名	氏 名	番 號	町 名	氏 名
六三二	南町	中外商業新報 福島新聞平支局	六六〇	五丁目	酒井亥之次郎	六四〇	田町	關内油槽所	六六一	田町	宇佐美友二郎	六四二	三日	山本屋旅館
六三三	南町	福島新聞平支局	六六一	橋	魚屋平田茂	六四五	二丁目 福元	石橋彦七	六六二	橋	濱三郡木炭業同組合	六四三	三日	山本屋旅館
六四一	田町	關内油槽所	六六二	橋	魚屋平田茂	六四四	南町	濱三郡木炭業同組合	六六三	橋	濱三郡木炭業同組合	六四四	三日	山本屋旅館
六四二	三日	山本屋旅館	六六四	南町	濱三郡木炭業同組合	六四五	堤内	馬豚肉問屋 佐久間丈吉	六六五	堤内	馬豚肉問屋 佐久間丈吉	六四五	二丁目 福元	石橋彦七
六四三	三日	山本屋旅館	六六六	田町	西洋料理 金春亭	六四六	治鍛町	鈴木多利吉	六六六	田町	西洋料理 金春亭	六五一	治鍛町	瀧澤俊平
六四四	三日	山本屋旅館	六七〇	月見町	古川兼松	六四七	治鍛町	鈴木多利吉	六七〇	月見町	古川兼松	六五二	紺屋町	玉川屋 塙秀次郎
六四五	二丁目 福元	石橋彦七	七〇三	新田町	公周旋 滑川敏之補	六四八	治鍛町	鈴木多利吉	七〇三	新田町	公周旋 滑川敏之補	六五三	田町	野木文彌
六四六	治鍛町	鈴木多利吉	七〇四	研町	大鶴屋 金成泉一郎	六四九	治鍛町	鈴木多利吉	七〇四	研町	大鶴屋 金成泉一郎	六五四	一丁目	白土貞三
六四七	治鍛町	鈴木多利吉	七〇七	鎌田町	根本精米所 根本忠吉	六五〇	治鍛町	鈴木多利吉	七〇七	鎌田町	根本精米所 根本忠吉	六五六	田町	玉屋洋品店
六四八	堤内	馬豚肉問屋 大塚武雄	六三〇	長橋町	常磐毎日新聞社	六五〇	治鍛町	鈴木多利吉	六三〇	長橋町	常磐毎日新聞社	六五八	堤内	馬豚肉問屋 大塚武雄

今般電話架設開通仕候間是非御利用の上倍舊の御愛顧御
 引立の程奉懇願候

内に蓄積されて 外には溢れ出さぬ

農漁村も好景氣だが 都會は未だ未だ
石城郡に於ける鯉漁は近年一 驗は舊盆の節季に現れるの 比を見ない程の豊況であ つた爲め兎角不振に蔽はる 沿海地方も一息ついた以 上に景氣がついたとのこと である殊に農村は

米價高

から引續い て春蠶の好況繭價の昂騰と 収入の増加を来し且麥作は 豫期以上の増收であり野菜 物は各種ともに土作であつ たから積年疲弊のあとをう けて何彼と沈滞勝ちは郡村 は豫想外な氣勢であるとい ふことだ

以上の

やうな有様 なので農漁村の昨今は世間 的に唱へられる不景氣とは ぜんぜんものと云つた形な ので其餘波は遠からず都邑 へも及ぶではないかと見ら れる節もあるされど今日に おける人心の趨向は往年の 如く何事にも有頂天になつ ての空騒ぎをせぬやうに落 着いて居るから折角の農村 景氣も内に蓄積されて外に あふれ出さぬかも知れぬさ うなれば自ら農村振興の基 礎が築かれるのだから

好況時

におけるが 町民が自覺し 水を節約 當局が喜ぶ

國家の

上からは頗 る喜ばしい現象であるが繰 つて都市の繁昌策からは一 寸面喰らふことにならう何 れにするもそれ等の實地試

多かつたにも拘らず金額は 三千四百圓で今年より百九 十圓だけ少い勘定であるこ れに就て水道部員の語る處 によると昨年七月には幹末 掃除などをやつて無駄な水 に喜んでゐた

豪雨降り續き

平地方の水田は泥海 常磐線にも故障起る

平地方は昨日來荒れ模様 に豪雨降り注ぎ新川氾濫し て内郷村及び谷川瀬耕田に 浸水、一面の泥海と化し若 し本日終日降雨續けば平町 は洪水に襲はるべく人心胸 々たるものがあるが磐越線川 前驛を約卅丁離れた東方線 路に土砂崩壊して全々列車 不通となり又常磐線夜の森 長塚兩驛間の線路に浸水あ り上下客車は同驛から折返 し運轉中にて貨車は不通、 兩線共雨止み次第明日から は復舊する由 (午後一時)

植田水電が

植田水力電氣株式會社にて 利率は年九分

社債を募集

平湯本間軌道會社專屬の乗 合自動車は本日午前十一時 頃材木町緑川材木店角にて 六丁目矢吹米店雇人某と衝 突した

自動車衝突

材木町にて

小野氏卒業の祝

石城郡湯本町故小部隆平氏の 養子工學士小野惣平氏の知 友約卅名は十四日午後七時 から同町山形屋旅館にて同 氏の爲めに卒業祝賀會を開 いた

鯉節を盗む

石城郡江名町大字江名字南 町漁夫小林榮太郎(三)は昨 日午前三時頃同町星廣太郎 方鯉節製造場に忍び入り荒 鯉節百七十六本(代金六十 四圓)を窃取逃走し豊間村 薄磯地内にて長谷場巡査に 逮捕さる

凌辱事件は

懲役三年に 昨日言渡さる

突瀆死の重傷を負はす

石城郡磐崎村大字上湯長谷 小野田炭礦捲揚運轉夫長瀬 爲義(三)が去る六月五日湯 本村等井トネル内にて藤 田トミ(三)を凌辱した事件 は昨日福島地方裁判所平支 部に於て公判を開廷白井裁 判所長より懲役三年の言渡 しがあつた

電話開通

番 六二〇番 右の電話本日から開通しま したから御利用願ひ上ます 常盤毎日新聞社 平町長橋町三五

募集

文藝其他投稿 を募集します は日本醸造協會主催の酒造 講習會が若松市に於て開か れることになつてゐるので 二十一日より廿五日まで五 日間開かれることに延期し た

石城の馬が

ブラリ病 豫防法研究中 石城郡地方の飼育馬に一名 ブラリ病といふ貧血性の傳 染病が流行して來たが此の 病氣に罹ると百頭の中四十 頭乃至七十頭位死亡すると いう恐ろしい病氣である爲 め縣當局でも豫防法に就て 研究中である

夏繭の走り

百掛で取引 石城地方の夏繭は十三日よ り平附近早場物の走り出ま はりあり相場は掛目百掛見 當、一貫九圓に取引され 飼育日數二十一、二日に過 ぎないが三坂、澤渡地方の 山間部方面の優良品は來る 十七、八日ごろより出まは り始め廿日より廿二、三日 最盛期に入るべく相場は春 繭同様の高値で養蠶家は何

ラツパを先登に 歩武堂々新舞子へ

明日平町から行軍 山と積んだ運動會の賞品 令を頒發して戦時行軍の形 式に依り進行到着後は滑川 磐城中学校校長其他の 諸氏の 精神講話あ つて運動會に移り百米突競 走を皮切りにワレーレース から相撲や寶探し迄卅數番 に亘つて演ぜられる競技に は一々平町各商店より寄贈 になつた賞品を授與し夫れ より再び四倉町に行軍水泳 の競技を爲し午後五時

校庭に

集合し後一 時間に亘り磐城中学校軍事 教官長島大尉の行軍に關す る軍事講演あり夫れより隊 伍を組んでラツパを先登に 歩調堂々磐城舞子に向へ途 中鎌田橋からは斥候及び傳



民間薬の果物

ザクロの實は解熱の効 があります。汁をこぼつて 含利別に製して貯へておき ますと、よろこぶございま